組み体操 事故128件

骨折35件 保護者「中止検討も」

12、13年度小中

小中学校で組み体操による重大事故が相次ぐ中、県内でも2012、13年度に128件の事故が発生し、うち35件は骨折だったことが大阪経済大の西山豊教授（数学）の調査で分かった。1万人あたりの負傷者数3・7人では47都道府県で34番目だったが、過去には死亡事故も起きており、西山教授は「安全対策ができないなら中止を含む検討が必要だ」と指摘している。【尾崎修二】

調査は、学校で児童生徒がけがをした場合に支払われる災害共済給付金（5000円以上）の給付件数を日本スポーツ振興センター（東京）に照会。データがまとまっている12、13年度の組み体操による事故の給付件数を分析した。医療費の給付があった全国の小中学校の事故件数は1万6711件（うち骨折は4334件）で、1万人あたりの負傷率は平均8人。最多の兵庫は19・9人、最少の山形は0・3人と地域差が大きかった。

群馬では小学校が負傷124件、骨折34件、負傷率5・5人（全国29位）▽中学校が負傷4件、骨折1件、負傷率0・3人（44位）▽高校は負傷1件、骨折0件、負傷率0・1人（42位）。

組み体操による重大事故は全国で後を絶たず、9月には大阪府の中学校で10段ピラミッドが崩れて6人が重軽傷。千葉県松戸市では組み体操で骨折事故が相次いだことを受け、来年度以降の廃止が検討されている。

群馬県内では1983年9月には桐生市の小学6年女児が、2段タワーの練習中に約1メートルの高さから転落し、頭を強打して翌日死亡した。組み体操は学習指導要領で定められた保健体育の必須授業ではなく「学校行事」にすぎないため、運用は各学校の裁量に任されている。県教委は7月に市町村教委を通じてアンケートを実施したが「今回は体系的でないため、結果は公表しない」という。

西山教授は「負傷件数が少ないから大丈夫とは言えない。各都道府県が学校での組み体操の実態を把握したうえで、安全対策を講じる必要がある」と強調する。

幼い子を持つ県内の保護者からは、切実な声が聞かれる。前橋市の主婦(31)は「死亡事故や取り返しのつかない後遺症が残る事故が起きてから組み体操を中止しても手遅れ。『達成感』のために命をかける必要があるのでしょうか」と疑問を呈する。会社役員の男性(40)は「一度中止して科学的に検証した方がよいのでは。教育委員会は責任を持って対応してほしい」。会社員の女性(45)は「組み体操をしなくても華やかな競技はたくさんあるし、盛り上がるはず」と話している。団体職員の男性(39)は「達成感や充実感が目的なら、低リスクで技術の習熟に時間がかかる活動でもよい。大人の都合でなく、実際に児童・生徒が何を感じているかきちんと調べるべきだ」と話す。

2015/12/29
毎日新聞 朝刊 群馬版